

沖縄FTZと中継貿易の展望

高良 守

▷11◁

それでは、具体的にSea & AirおよびAir & Airの運賃比較をすると、各図表の通りである。

沖縄を中継する経費による比較優位品目は生鮮食料品・魚介類や急を要するもの、高付加価値のもの(衣類・ファッション性のあるもの)に断然表れている。

しかし、実際は中国からの生鮮魚介類(ウナギ、上海ガニ、赤貝、稚魚類等)の輸入の場合、空路でチャーター便を利用する方法では窓口が名古屋となつていて、一端そこで降ろして、そこから北は北海道から南は沖縄まで搬送される。

名古屋から各市場へは陸路や海路によって輸送

されるのでさらに時間もコストもかかってしまふ。従つて中国からの以上の品目(生鮮魚介類)

に關しては、割高のものを買わざるを得ない状態である。

これが外国から日本本土への輸入貨物を沖縄サードポートをまとめ、輸入貨物の中継地(集約地)としての機能を果たすことができ、また双方にとって有利な輸送形態

で輸送されれば、関税や輸送費を含めた相当なコスト削減が望めるはずだ。

中国からの輸出入品目も表示してある。中国からの輸出品目をみると魚介類や野菜などの生鮮食品の割合が多く、中国が日本への供給先になつて

いることが分かる。各図表からも分かるように生鮮食料品に關しては、輸送形態のSea & AirやAir & Airの比較優位性は沖縄の方に明確に表れている。

(琉大大学院学生)

輸入貨物の集約地に

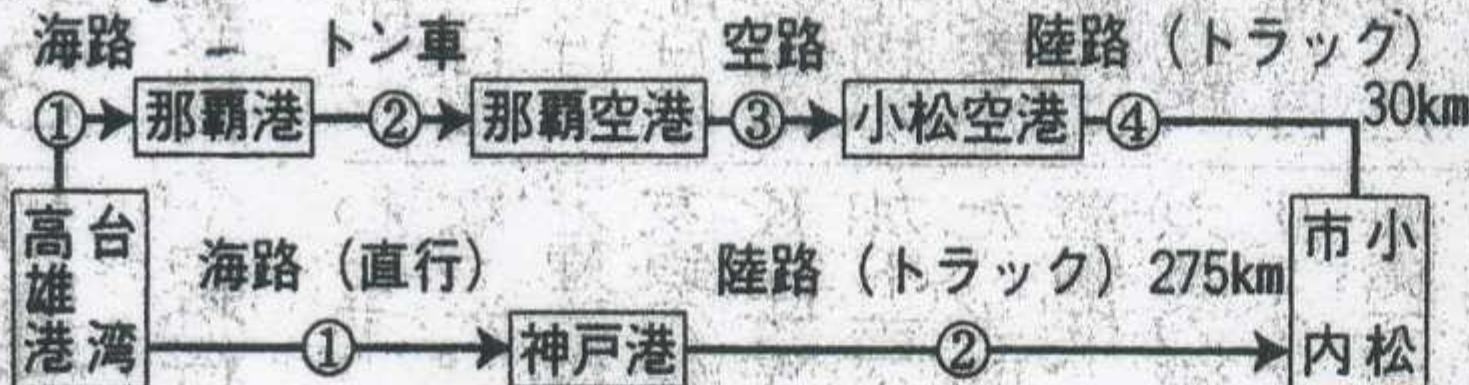
生鮮品で優位明確な沖縄

[Sea & Air] 運賃比較

品目A=うなぎ、豚肉(冷凍もの)・250kg

品目B=一般貨物・250kg

ルートI



ルートII



(出所) ~沖縄・台湾産業交流事業等報告書I~南西地域産業活性化センターより作成

ルート	品目	金額	①	②	③	④	計
ルートI	品目A	金額	\$1,200	\$56	\$466	\$138	\$1,860
	品目B	金額	\$860	\$56	\$755	\$138	\$1,809
ルートII	品目A	金額	\$1,450	\$506			\$1,956
	品目B	金額	\$870	\$506			\$1,376
		日数	1日	0.5日	0.5日		2日
		日数	5日	1日			6日

台湾からの中継貨物輸入実績比較 (平成元年)

(金額による比較; %)

	Sea & Sea	Sea & Air	Air & Air	合計
鮮魚			100.0	100.0
活鰻			100.0	100.0
うなぎ蒲焼き	100.0			100.0
エビ類		0.5	99.5	100.0
野菜	92.9		7.1	100.0
落花生	100.0			100.0
切り花・植木類	99.9		0.1	100.0
菓子類	100.0			100.0
プラスチック	100.0			100.0
木材	100.0			100.0
衣類	55.1	42.4	2.5	100.0
洋傘	100.0			100.0
電気機器	98.6	1.4		100.0
自動車部品	100.0			100.0
家具類	100.0			100.0
その他	57.4	21.5	21.1	100.0

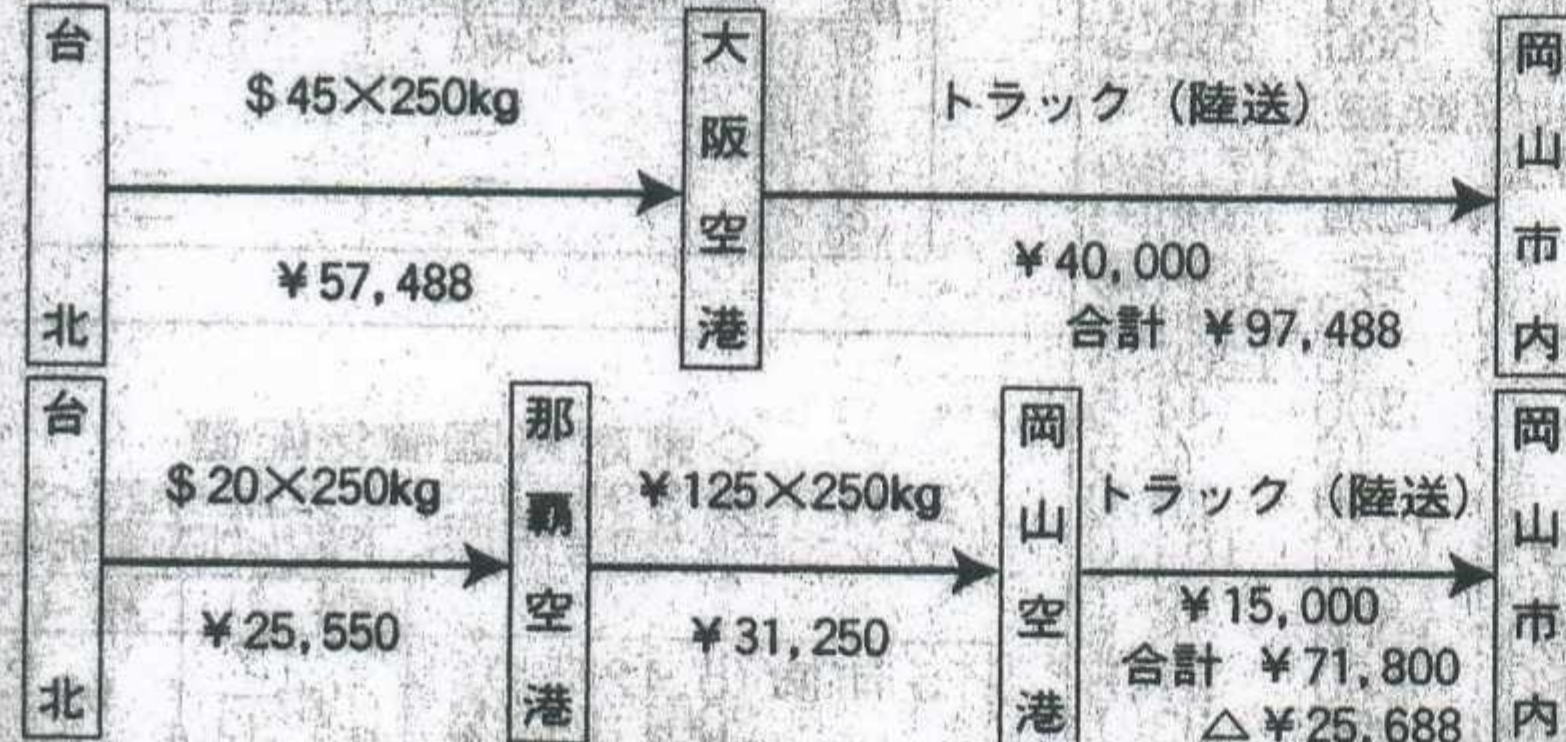
(出所) 沖縄自由貿易地域の拡充整備および新規展開のための基本計画調査 平成7年1月 沖縄地域工学研究所

1991年の対日主要再輸出入品目 (単位: 1万ドル)

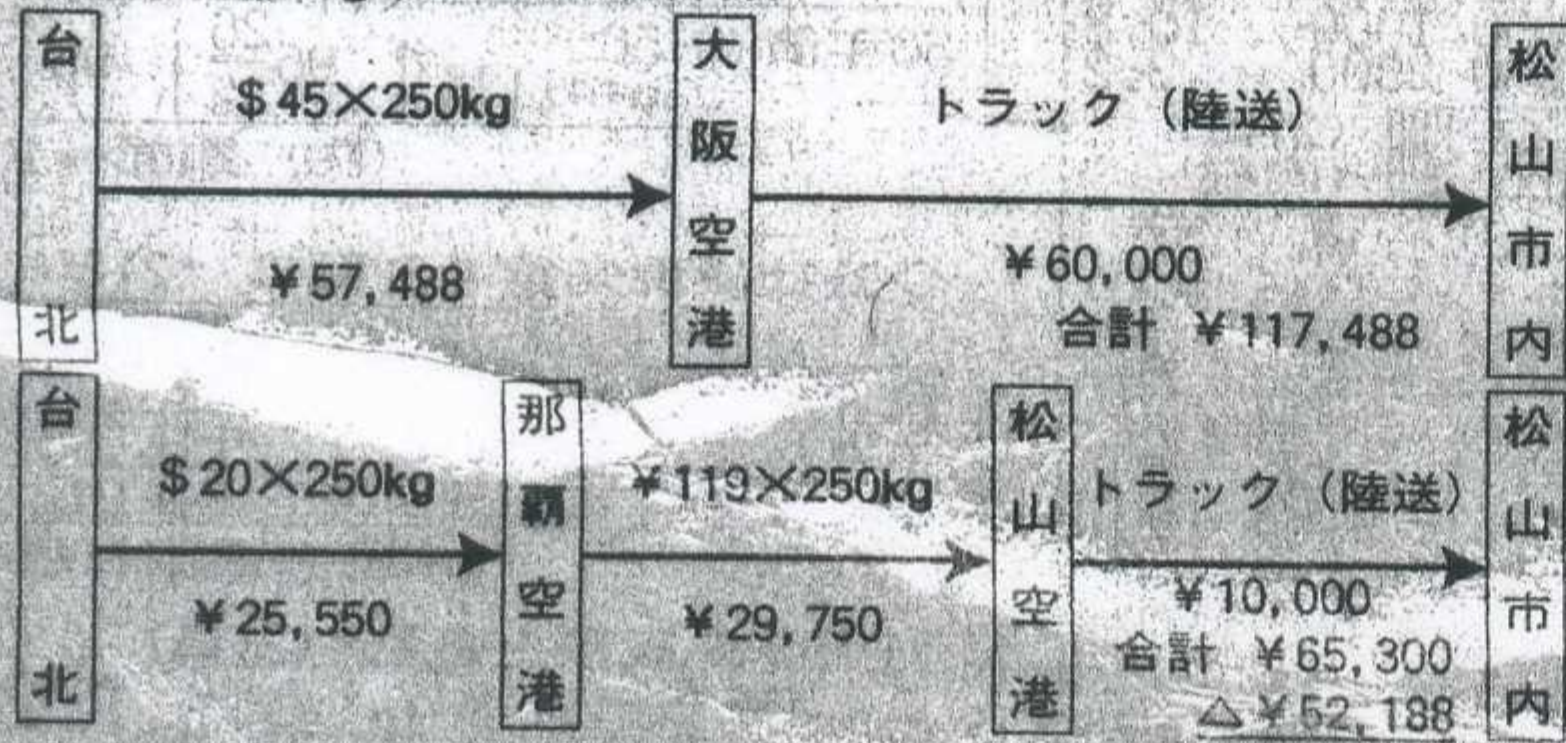
輸出品目名	金額	輸入品目名	金額
石油・石油製品・関連原料	193,232	鉄鋼	158,814
衣類・同付属品	156,451	特定産業用機械	102,713
織物用繊維糸、繊維製品	76,388	他の電気機械	83,241
魚介類・同調製品	62,421	道路走行車両	79,247
野菜・果物	55,679	通信機器、放送受信機等	58,550
鉄鋼	41,419	織物用繊維糸、繊維製品	55,762
織物用繊維・同くず	32,660	一般産業用機器、同部品	54,999

(出所) 平成5年度 南西地域の産業活性化に関する調査研究事業 -華南経済圏調査報告書II- 平成6年 財団法人 南西地域産業活性化センター

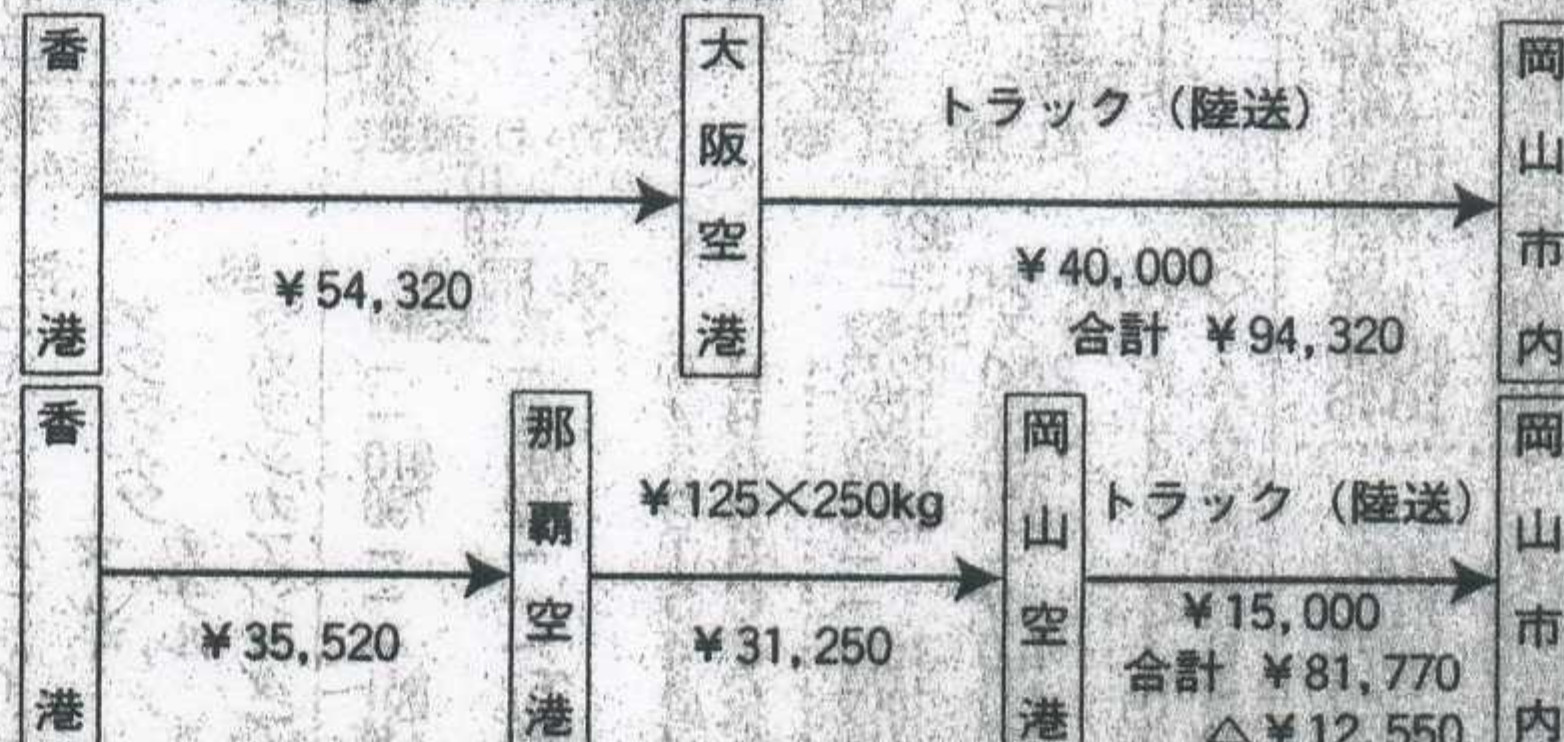
〈モデルケース1〉台北→岡山市内



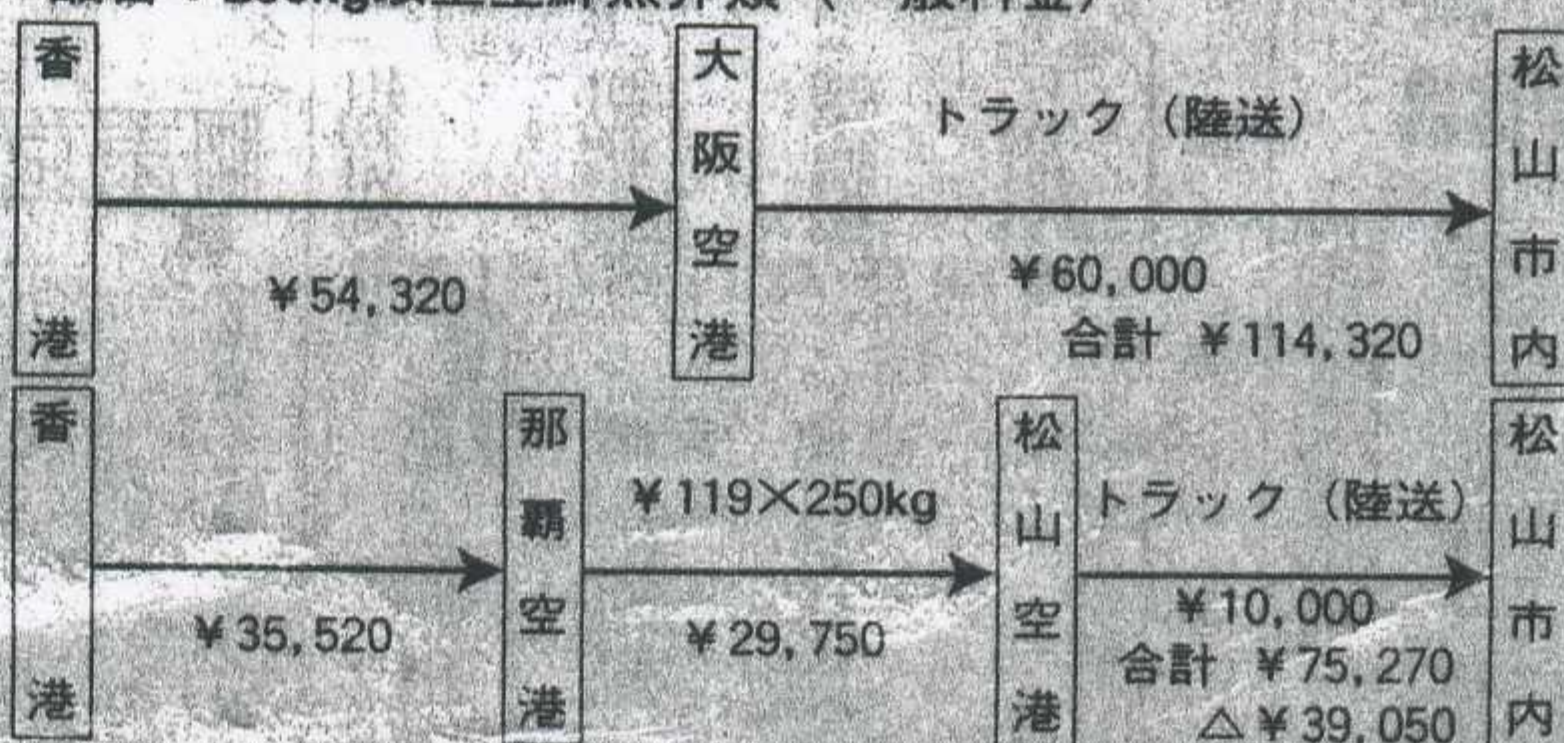
〈モデルケース2〉台北→松山市内



〈モデルケース3〉香港→岡山市内



〈モデルケース4〉香港→松山市内



(出所) 「国際的交流・物流拠点形成調査報告書」平成4年3月 沖縄開発庁総合事務局総務部調査企画課